

【解説文】

従先祖之勤書

伊藤一郎兵衛印

高祖父

伊藤九兵衛

一私并二男伊藤市郎兵衛儀撰州大坂ニ罷在候処

嫡子山田久弥江其方親并弟右兩人共ニ呼寄

可申旨被仰付罷越候於勢州龜山私江

御知行百五拾石被下置候

曾祖父

伊藤市郎兵衛

一私儀於勢州龜山御小姓ニ被召出父九兵衛

病死仕候以後御知行百五拾石被下置候

一大坂御陣之御供仕首四級討取差上申候

御平均之後大坂被遊御拝領於彼地御知行

三百石ニ被成下従大坂和州郡山江被遊

御所替弍割之御加増ニ而三百六拾石ニ被成下候

彼地ニ而中之御番被仰付候其後於同所

御使役被仰付従郡山播州姫路江被遊

御所替弍割之御加増被成下四百三拾弍石ニ罷成候

彼地ニ而御物頭役被仰付候

祖父

伊藤市郎兵衛

一私儀実者元祖奥平仁兵衛世忰ニ而御座候父

市郎兵衛実子無御座候ニ付養子ニ仕於播州姫路

御小姓ニ被召出御切府拾石被下置候

忠明公被遊御遠行候後中之御番被

仰付候明曆元乙未年於羽州山形父市郎兵衛

病死仕家督無相違被仰付同三丁酉年

御物頭役被仰付相勤申候其以後病氣ニ付

御役儀差上申度旨度々奉願御聞届之上

被成下御赦免御物頭並ニ被仰付気分

養生仕候而翌年ニ至少々快気仕出仕之節

御目見ニ罷出候所ニ其方御物頭跡役不被

仰付被差置候御役御戻シ被遊候間病氣養生仕

相勤候様ニ与被 仰付別而難有奉存一兩年  
相勤申候其後段々病氣重ク罷成達而  
奉願御役儀差上申候於野州宇都宮寛文  
九己酉年隱居之儀奉願候通被 仰付世悴  
伊藤七郎兵衛江家督無相違被下置候右  
七郎兵衛義加藤太郎右衛門二男ニ而御座候私実子  
無御座、先達而奉願養子ニ仕置候私名意忠与  
相改五人分御扶持方被下置候

父

伊藤市郎兵衛

一 私以前之養子伊藤七郎兵衛儀中之御番相勤  
延宝四年丙辰年御使役被 仰付相勤罷在申候処  
天和元年十一月加藤太郎右衛門相続無御座候ニ付  
同人方江罷帰候様ニ被 仰付父意忠儀者  
養子望次第ニ被 仰付可被下旨被  
仰出候私儀実者奥平土佐孫ニ而御座候実父  
惣兵衛義者大津坂本ニ而病死仕候於野州  
宇都宮一類共御詫申上引取奥平仁兵衛方ニ  
一家共厄介ニ仕差置申候父意忠養子ニ願上  
早速願之通被 仰出家督無相違私江被  
下置中之御番被 仰付候意忠儀元禄  
八亥年於羽州山形病死仕候  
天和六年袖留候而御番御帳ニ判形仕候  
一 貞享三年正月十九日前田權之助様御死去ニ付而  
御使者被 仰付江戶江罷越相勤申候  
一 從奥州白川羽州山形江御所替之節御城  
請取方相勤申候  
一 於備後福山元禄十四巳年正月御使役被  
一 仰付候同年十一月寒中  
公儀御機嫌御伺之為御使者江戶江  
罷越相勤申候  
一 宝永二年四月十一月御物頭役被 仰付候  
一 同五子年四月御武器被成御預ケ候  
一 同六丑年五月京都御普請御用ニ而同所江  
一 罷越相勤同年十月罷帰申候  
一 同勤申候二月町奉行被 仰付宗門御改御用共ニ  
一 從備後福山桑名江被遊 御所替候節  
一 御城請取方相勤申候

一 享保四亥年八月御物頭江歸役被 仰付御  
 一 武器共ニ御預ケ被成候  
 一 同十二未年五月為 御留守詰江戸江罷越  
 一 同十三申六月同所ニ而御小姓頭被 仰付候勝手  
 一 次第御在所江罷歸候様ニ与之義ニ而同七月  
 一 罷歸申候  
 一 同十七子年四月御用人被 仰付候  
 一 同年御勝手向御欠略方被 仰付同八月  
 一 就御用江戸江罷越於彼御地廿日余逗留夫より  
 一 直ニ京都江罷越日數六日在京同十月桑名江  
 一 罷歸三四日休息仕夫より江戸江罷越御用相濟  
 一 同十一月罷歸申候  
 一 同十九寅年四月御持筒組御預ケ被成候  
 一 同年十月御勝手向御欠略之儀元ノ与  
 一 相心得相勤候様ニ与被 仰付候  
 一 元文四年正月江戸 御上屋鋪御普請就  
 一 出来御小袖御樽肴 御自筆御書付を以  
 一 被下置候  
 一 同年十一月老年迄出情相勤候旨  
 一 御意之上御加増本高百五拾石之積ニ而百石  
 一 被下置都合三百八拾八石ニ罷成申候  
 一 江戸江詰立歸度々罷越申候  
 一 同五年五月当国菰野江入湯仕於同所病死仕候  
 一 祖父家督父市郎兵衛江被下置六十二年相勤申候  
 一 私儀享保三戌年五月中之御番江被 伊藤一郎兵衛  
 一 召出三人扶持被下置候  
 一 同十三申年七月御加扶持二人分被下置五人扶持ニ  
 一 被成下候  
 一 元文四年未年七月御小姓頭被 仰付十人扶持ニ  
 一 被成下候  
 一 同五年申年五月 御參勤御供仕候  
 一 同年六月亡父跡目無相違私江被下置候  
 一 同七月定府被 仰付翌酉年三月為引越  
 一 桑名江罷越同五月江戸江罷歸申候  
 一 寬保二戌年六月妻病氣ニ付御在所勝手ニ被  
 一 成下度旨奉願候通被 仰付候処同七月妻病  
 一 死仕候付而右之通ニ御座候上者被 仰付候ハ、定  
 一 府相勤申度段申達候處達 御聽尤

一 思召并定府被 仰付候  
 一 延享三寅年十一月定府被成 御免御在所  
 一 勝手ニ被 仰付候  
 一 同年十二月定府中出情相勤候段  
 一 御意之上銀子二十枚拝領仕候同月江戸  
 一 罷立桑名江罷帰申候  
 一 私御奉公罷出当年迄三十一年ニ罷成申候  
 右之外定府中地廻り御用相勤候儀者  
 書記不申候以上  
 延享四丁卯年四月

【読み下し文】

先祖よりの勤書

伊藤一郎兵衛印

高祖父

伊藤九兵衛

一、私ならびに二男伊藤市郎儀摂州大坂に罷り在り候処、  
 嫡子山田久弥へ其方親ならびに弟右兩人共に呼び寄せ  
 申すべき旨仰せ付けられ罷り越し候。勢州亀山におい  
 て私へ御知行百五拾石下し置かれ候。

曾祖父

伊藤市郎兵衛

一、私儀勢州亀山において御小姓に召し出され、父九兵衛  
 病死仕り候以後御知行百五拾石下し置かれ候。  
 一、大坂御陣の御供仕り首四級討ち取り差し上げ申し候。  
 御平均の後大坂御拝領あそばされ彼地において御知行  
 三百石に成し下され、大坂より和州郡山へ御所替あそ  
 ばされ式割の御加増にて三百六拾石に成し下され候。  
 彼地にて中之御番仰せ付けられ候。其後同所において  
 御使役仰せ付けられ、郡山より播州姫路へ御所替あそ  
 ばされ式割の御加増成し下され四百三拾式石に罷り成  
 り候。彼地にて御物頭役仰せ付けられ候。

祖父

伊藤市郎兵衛

一、私儀実は元祖奥平仁兵衛世倅にて御座候。父市郎兵衛



一、同様候。同年十一月寒中公儀御機嫌御伺いの御使者と  
 一、宝永二酉年十一月御物頭役仰せ付けられ候。  
 一、同五子年四月御武器御預ケなされ候。  
 一、同六丑年五月京都御普請御用にて同所へ罷り越し  
 一、相勤め同年十月町奉行仰せ付けられ宗門御改御用共  
 一、相勤め申し候。桑名へ御所替あそばされ候節御城請取  
 一、備後福山より桑名へ御所替あそばされ候節御武器共  
 一、方相勤め申し候。御物頭へ帰役仰せ付けられ御武器共  
 一、享保四亥年八月御物頭へ帰役仰せ付けられ御武器共  
 一、に御預ケ成され候。御留守詰として江戸へ罷り越し同十  
 一、三申六月同所にて御小姓頭仰せ付けられ候。勝手次第  
 一、御在所へ罷り帰り候様にとの義にて同七月罷り帰り申  
 一、し候。  
 一、同十七子年四月御用人仰せ付けられ候。  
 一、同年御勝手向御欠略方せ付けられ、同八月御用につき  
 一、江戸へ罷り越し彼御地において廿日余逗留、それより  
 一、直に京都へ罷り越し日数六日在京、同十月桑名へ罷り  
 一、帰り三四日休息仕り、それより江戸へ罷り越し御用相  
 一、濟み同十一月罷り帰り申し候。  
 一、同十九寅年四月御持筒組御預ケ成され候。  
 一、同年十月御勝手向御欠略の儀元々と相心得相勤め候  
 一、様にと仰せ付けられ候。  
 一、元文四未年正月江戸御上屋鋪御普請就出来につき御  
 一、小袖御樽肴御自筆御書付をもつて下し置かれ候。  
 一、同年十一月老年迄出情相勤め候旨御意の上御加増本  
 一、高百五拾石の積りにて百石下し置かれ都合三百八拾八  
 一、石に罷り成り申し候。  
 一、江戸へ詰立帰り度々罷り越し申し候。  
 一、同五申年五月当国菰野へ入湯仕り同所において病死  
 一、仕り候。  
 一、祖父家督父市郎兵衛へ下し置かれ六十二年相勤め申  
 一、し候。

伊藤一郎兵衛

一、私儀享保三戌年五月中之御番へ召し出され三人扶持  
 一、下し置かれ候。御加扶持二人分下し置かれ五人扶持

一、成し下され候。七月御小姓頭仰せ付けられ十人扶持ニ  
 一、同五年五月御参勤御供仕り候。  
 一、同六月亡父跡目相違なく私へ下し置かれ候。  
 一、同七月定府仰せ付けられ翌酉年三月引越のため桑名  
 へ罷り越し同五月江戸へ罷り帰り申し候。  
 一、寛保二戌年六月妻病氣につき御在所勝手に成し下さ  
 れたき旨願ひ奉り候通り仰せ付けられ候処同七月妻病  
 死仕り候についで右の通に御座候うえは仰せ付けられ  
 候わば定府相勤め申したき段申し達し候處御聴に達し、  
 一、もつともの思し召しならびに定府仰せ付けられ候。  
 一、延享三年十一月定府御免なされ御在所勝手に仰せ  
 付けられ候。十一月定府中出情相勤め候段御意のうえ銀子二  
 一、十枚拝領仕り候。同月江戸罷り立ち桑名へ罷り帰り申  
 し候。  
 一、私御奉公罷り出当年迄三十一年に罷り成り申し候。  
 右の外定府中地廻り御用相勤め候儀は書き記し申さず  
 候。以上。

延享四丁卯年四月